

天声人語

「海燕」「通販生活」「Ca
nCam」「ザテレビジョン」
「フロム・エー」。いずれも1
980年代初頭に創刊された雑
誌である。週刊、月刊、季刊を
問わず、あのころ世に出た雑誌
には発信力と輝きがあった▼その一つが
「新潮45」である。「45歳以上の中高年
が読む雑誌」という旗を掲げて82年春、
前身の「新潮45+」として創刊された。
犯罪少年の実名を報じ、皇太子に退位を
勧めて物議をかもす。かと思うと政治家
の謎の死に迫るなど気骨も見せた▼「彼
ら彼女らは子供を作らない、つまり『生
産性』がない」。性的少数者を否定する
杉田水脈・衆院議員の寄稿を載せたのは
今年8月号。偏見に満ちた極端な主張が
批判を招くと、10月号では擁護する企画
を載せた▼あらためて創刊号を開く。司
馬遼太郎氏は、折り目正しい武士の所作
が維新で廃れたことを嘆く。塩野七生氏
は脱獄囚を論じて読者を17世紀のローマ
へいざなう。タモリ氏と井上ひさし氏の
対談は日本語を縦横に論じて興味が尽き
ない。執筆陣の豪華さ、企画の自由闊達
さに改めて感じ入る▼「良心に背く出版
は、殺されてもせぬ事」。明治の後半、
新潮社を創業した出版人佐藤義亮（さとうよしかつ）が高ら
かに掲げた言葉だ。その理念は「45+」
にも引き継がれ、創刊の辞は「人間を中
心に取り上げるよう志しました」▼今回
の企画は、その良心に背いていなかった
か。少数派の人間を切り捨てる冷たさ
はなかったか。惜しむべき雑誌ジャー
ナリズムの灯が、またひとつ消えた。